

## ◆研究3【家庭学習】の実践イメージ

※新規：日常的な持ち帰りと課題内容

※新規：家庭における協働学習の可能性

→個別学習の課題内容と協働学習の課題内容

→家庭学習ノートを調べる業務・添削業務の軽減

①**基礎・基本の定着**：家庭学習ノートとタブレット端末（デジタルドリル等）を組み合わせた漢字、計算指導等

②**反転授業**：タブレット端末の持ち帰りによる家庭での予習からの授業（反転授業）**算数科以外の教科で実践**

◆そもそも家庭学習の目的は何か？

**学習習慣を確立**させること、「**基礎・基本的な力を定着させ、発展的な力を育む**」=全員に出す「**共通課題**」の宿題と本人の意欲や学習状況に応じて進める「**自主学習**」から構成される。

# 学習場面におけるアナログとデジタルの使い分け方

教師は、子どもの学習状況からアナログとデジタルによる学習指導の使い分けを判断する

指導方法 学習場面	アナログによる 学習指導	デジタルによる 学習指導	児童生徒の 学習状況 (基礎基本の定着 度、活動内容等)	
<b>授業</b>  <b>補充指導</b>  <b>家庭学習</b>	基礎基本の定着	定着の確認、習熟	C: 不十分	学習対象の把握 見学 観察 鑑賞等
	基礎基本の定着	定着の確認、習熟	B: 概ね良好	
	基礎基本の定着	定着の確認、習熟	A: 良好	



順序性・組み合わせ方

基礎基本の定着

使い分け方

定着の確認、習熟

基礎基本の定着

使い分け方

定着の確認、習熟

基礎基本の定着

使い分け方

定着の確認、習熟

C: 不十分  
B: 概ね良好  
A: 良好

C: 不十分  
B: 概ね良好  
A: 良好

C: 不十分  
B: 概ね良好  
A: 良好

学習対象の把握  
見学  
観察  
鑑賞等

学習対象の把握  
見学  
観察  
鑑賞等

学習対象の把握  
見学  
観察  
鑑賞等

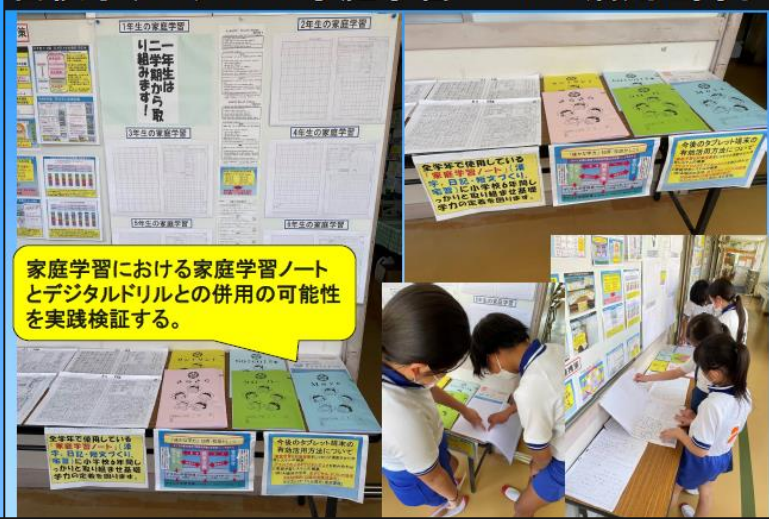
# 発達段階に応じたアナログとデジタルの配分(目安)

アナログとデジタルのバランス(目安)	【低学年】 1年生 2年生	【中学年】 3年生 4年生		【高学年】 5年生 6年生
デジタル学習指導	2	4	6	8
アナログ学習指導	8	6	4	2
タブレット端末の活用程度 ・ 家庭への持ち帰り	学校で慣れ 親しみ・使う 家庭への持ち帰り不可		学校・家庭で 使いこなす 家庭への持ち帰り可	

# タブレット端末の持ち帰りに伴う家庭学習の実践イメージ

①

## 自校オリジナルの家庭学習ノートの活用と掲示



家庭学習における家庭学習ノートとデジタルドリルとの併用の可能性を実践検証する。

家庭学習ノート課題(共通課題・個別学習)

②

## 【家庭学習】6年生の宿題はデジタルドリル『ナビマ』と『タブレットドリル』 2022年10月03日



10月3日(月)今週の6年生の宿題は、タブレット端末を持ち帰ってデジタルドリルの『ナビマ』『タブレットドリル』で行います。5、6年生は夏休みに1か月間タブレット端末を持ち帰り、調べ学習やデジタルドリルに取り組みましたが、今週は家庭学習ノートやプリントではなく、デジタルドリルで家庭学習を行うことにしました。この取組が上手くいけば、日常的なタブレット端末の持ち帰りが可能となります。宿題がアナログの家庭学習ノートや課題プリントだけでなく、デジタルドリルという選択肢も加わることになります。

デジタルドリル課題(共通課題・個別学習)

③

## 5年2組 算数科「倍数と約数」前時終末～家庭学習の流れ

前時終末時に次の学習課題を設定 自分なりの方法で家庭学習課題を解く

つかむ → 見通す → 調べる・考える

A1: 教員による教材の提示 B1: 個に応じる学習

自分の考えをノートに書きまとめる → 写真に撮る → 提出箱に提出 先生のタブレット端末へ写真を送信する

◆つかむ→見通す→考える で活用

【前時終末】  
前時の終末で、次時の学習問題、めあてを設定する。解決方法を見通す。

【家庭学習】  
家で自分の考えを算数シートに書く。算数ノートをタブレット端末カメラで写真に撮り、教師用タブレット端末に送信する。教師用タブレット端末に集約された子どもの考えを基に授業プランを練る。

子どもたちの考えをロイロで集約する

次時の予習課題(共通課題・個別学習)

- 基礎基本が確実に定着する。
- ノート添削の手間がかからず業務が簡素化、効率化される。
- 授業内容がこれまで以上に深まり充実する。(反転授業)
- ※個別の課題を協働で学習する パターンの可能性を探る。

# 2023年度実践

## 【家庭学習編】

日常的な持ち帰りと課題内容

家庭における協働学習の可能性

◆個別学習の課題内容と協働学習の課題内容

◆家庭学習ノートを調べる業務・添削業務の軽減

## タブレット端末の活用

# 家庭学習課題の与え方パターン①

## アナログ型課題(家庭学習ノート、プリント等)

各学年の子どもたちの家庭学習ノート模範的な例

6年生の家庭学習



家庭学習ノート課題(共通課題・個別学習)

家庭(アナログ課題)

【家庭学習から学校での補充指導へ】

6の3(家庭学習ノート→デジタルドリル) 2022年05月14日



【家庭学習ノート】基礎基本の定着・習慣化→【デジタルドリル】定着の確認・習熟



学校(補充指導)

従来のアナログ型の家庭学習のパターンである。

○家庭学習の習慣化を図ることができる。

○基礎基本の確実な定着を図ることができる。

▲ノート添削の手間がかかる。

# 【家庭学習】家庭学習ノートとデジタルのよさを 組み合わせた家庭学習

2023年05月10日



家庭学習では、家庭学習ノート(アナログ)とタブレット端末の持ち帰り(デジタル)による課題(調べ学習やデジタルドリル等)との併用をしながら、バランスよく活用することを研究対象にしています。子どもたちにしっかりと基礎基本(漢字の読み書き、計算等)を身に付けるためには家庭学習ノートがとても有効です。その一方で担任の先生方は一人一人の家庭学習ノートをきめ細やかに添削するのにとても時間がかかり、中には2冊体制にして自宅に持ち帰って添削している先生方もいます。学力を落とさずに、しかも先生方の添削業務の軽減、持ち帰り業務の改善につながるような家庭学習のあり方について明らかにしていきたいと考えています。

# 家庭学習課題の与え方パターン②

## アナログ型課題をデジタルドリルに置き換える



学校（授業）

【家庭学習】 6年生の宿題はデジタルドリル  
『ナビマ』と『タブレットドリル』 2022年10月03日



10月3日（月）今週の6年生の宿題は、タブレット端末を持ち帰ってデジタルドリルの『ナビマ』『タブレットドリル』で行います。5、6年生は夏休みに1か月間タブレット端末を持ち帰り、調べ学習やデジタルドリルに取り組みましたが、今週は家庭学習ノートやプリントではなく、デジタルドリルで家庭学習を行うことにしました。この取組が上手いけば、日常的なタブレット端末の持ち帰りが可能となります。宿題がアナログの家庭学習ノートや課題プリントだけでなく、デジタルドリルという選択時に加わるようになります。

デジタルドリル課題（共通課題・個別学習）

家庭（デジタルドリルで復習）

家庭学習ノートや課題プリントをデジタルドリルに置き換えるパターンである。家庭でデジタルドリルを活用して復習する。

- 家庭学習の習慣化を図ることができる。
- 基礎基本の確実な定着を図ることができる。
- ノート添削の手間がかからない。



# 家庭学習課題の与え方パターン③

## 反転型授業(次時の予習課題→授業へつなぐ)

5年2組 算数科「倍数と約数」前時終末～家庭学習の流れ

前時終末時に次の学習課題を設定 **自分なりの方法で家庭学習課題を解く**

つかむ → 見通す → 調べる・考える

A1: 教員による教材の提示      B1: 個に応じる学習

自分の考えをノートに書きまとめ  
一写真に撮る→提出箱に提出

先生のタブレット端末へ写真を送信する

子どもたちの考えをロイロで集約する

◆つかむ→見通す→考える で活用

【前時終末】  
前時の終末で、次時の学習問題、めあてを設定をする。解決方法を見通す。

【家庭学習】  
家庭で自分の考えを算数シートに書く。算数ノートタブレット端末カメラで写真に撮り、教師用タブレット端末に送信する。教師用タブレット端末に集約された子どもの考えを基に授業プランを練る。

5年2組 算数科「倍数と約数」反転授業 本時

自分の求め方をグループ内の友達に説明→全体にも説明 **デジタルドリルの活用**

深める → まとめる → (適用学習)

グループ内で個の考えを共有し、グループとしての考えをまとめる。→学級全体で共有して深める

本時の学習を振り返りながらまとめる

C2: 協働での意見整理      C1: 発表や話し合い      A2: 一斉学習でのまとめ

◆深める→まとめる→適用問題 で活用

まず、グループ内の一人一人の考えをタブレット端末を使って説明し合う。

次にグループでまとめた考えを大型モニターに映し出して学級全体で発表し確認する。

最後に本時で学習した3つの倍数のある問題をデジタルドリル等を活用して解かせる。採点はデジタルドリルが行い、その達成状況は自動集計され記録・保存できる。

デジタルドリルで適用問題に取り組む  
(教科書問題→ナビマータブレットドリル)

B1: 個に応じる学習

次時の予習課題(共通課題・個別学習)

家庭(アナログ課題)  
→先生へデータ送信

学校(反転型授業)  
展開部からスタート

- 算数科以外の教科領域でも行える可能性がある。
- 家庭学習と授業を切れ間なく繋ぐことができる。
- 教師はデータ回答を基に授業構想を練ることができる。

# 家庭学習課題の与え方パターン④

## 本時の授業の振り返り・復習

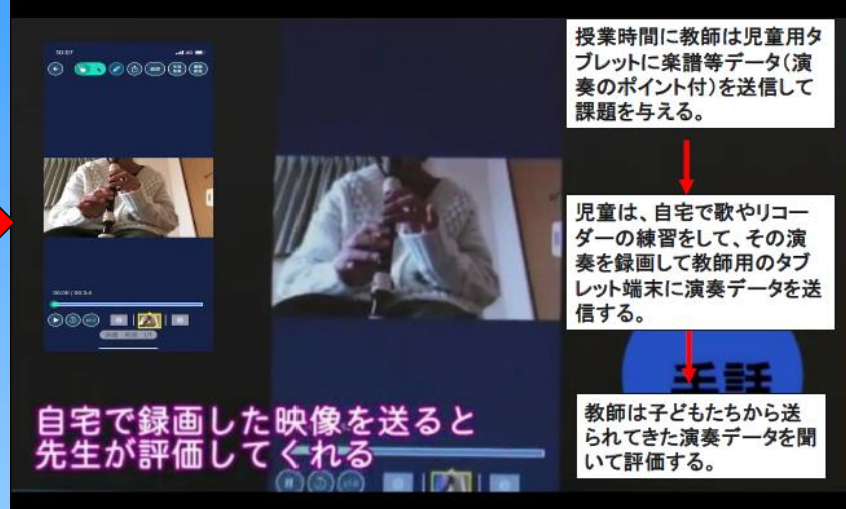
タブレット端末を自宅に持ち帰っての歌唱練習のための事前指導  
2022年03月12日



3月11日(金)音楽室では6年2組がタブレット端末の録音操作を確認しています。卒業式の最後に歌う予定の「旅立ちの日に」のピアノ伴奏カラオケに合わせて自分の歌声を録音するための操作方法を確認しています。

学校(録画方法等を確認)

自宅で練習し、録画したリコーダーの演奏を先生のタブレット端末に返信された動画(3月)



授業時間に教師は児童用タブレットに楽譜等データ(演奏のポイント付)を送信して課題を与える。

児童は、自宅で歌やリコーダーの練習をして、その演奏を録画して教師用のタブレット端末に演奏データを送信する。

教師は子どもたちから送られてきた演奏データ聞いて評価する。

家庭(練習→録画→送信)

- 演奏・演技・発表等の動画データ等があればタブレットを持ち帰り、その映像を振り返りながら課題点を明らかにして学ぶ家庭学習が行える。
- 次の授業にも繋ぐことができる。

# 家庭学習課題の与え方パターン⑤

## 授業で学んだことを自主的に調べる(自主的な学び)

6年picture dictionary及びヘッドセット等を活用して英語科授業を行いました 2022年11月29日



ヘッドセットを付けた個別学習



導入の指導者とAEAの一斉学習の様子



発表を練り上げる個別学習

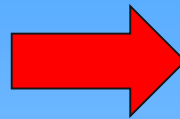


発表を録画するペア学習



相互に発表するグループ学習

本校では、英語専科の先生とAEAの先生がTT(チーム、ティーチング)できめ細やかな指導を行っています。子どもたちは、picture dictionaryのコンテンツを使ってヘッドセットを付けて個別学習に取り組んでいます。ペアで自分たちの発表を録画して振り返り、グループでも発表し合って自分の表現力を高めています。自分の発表映像を見ながら、課題を見つけて更により良い表現へと高めていきます。



学校(授業で学んだ内容)

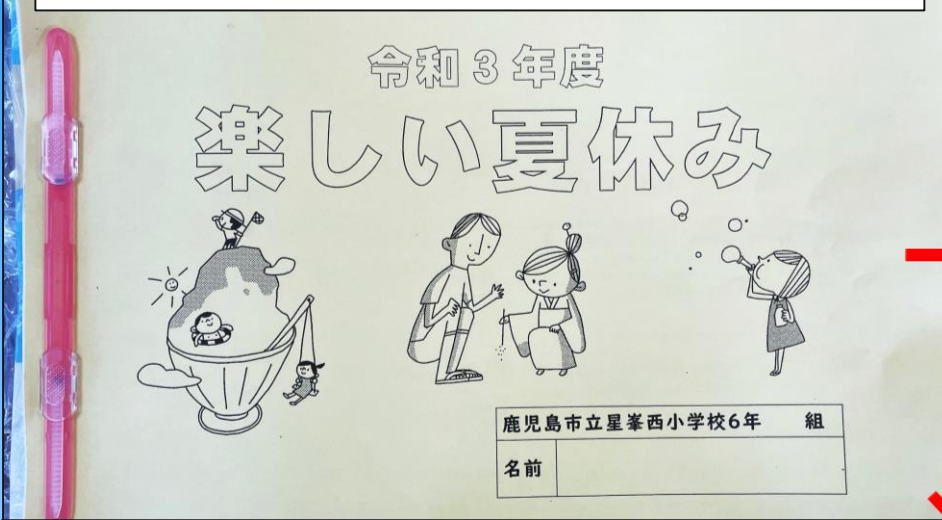
家庭(自主的な学び)

- 授業で学んだことや興味関心を持ったことを更に深く調べるような家庭学習(受け身型の課題ではなく、自ら学びたいことを決める**自主的な学び**)が行える可能性がある。
- チャットで連絡を取りながら協働で調べる学びもある。

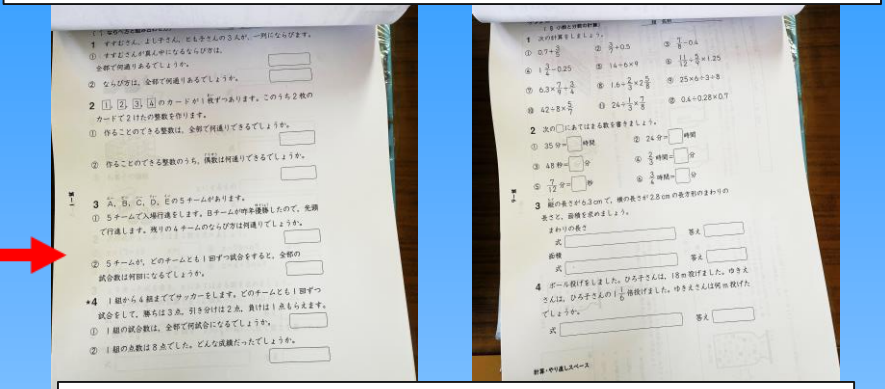
# 【長期休業中の家庭学習】4, 5, 6年生(計317名)でのタブレット端末の持ち帰り

2023年07月19日

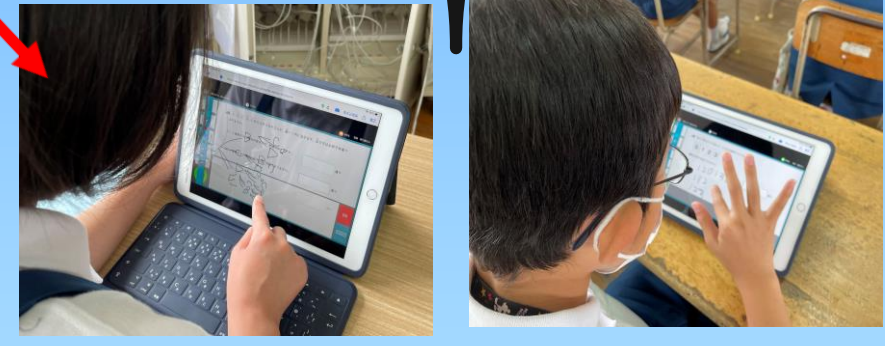
【アナログ】昨年度の夏休みの課題帳



【アナログ】国、算、社、理の課題プリント



【デジタル】デジタルドリルで代用する



【デジタル】タブレット端末の持ち帰り調べ学習、作品制作等にも活用

**タブレット端末持ち帰りのよるメリット**

**【児童生徒側】**

- ①取り組んだ問題の解答、解説をその場できる。
- ②様々な調べ活動が可能
- ③自由研究などの取材、資料作成などが可能
- ④夏休み期間も操作スキルが向上 など

**【教師側】**

- ①プリント作成の業務削減
- ②紙の削減、印刷、丁合の業務削減
- ③進捗状況をタブレット端末内で把握可能
- ④夏休みの課題処理の採点業務の削減 など